研修アンケート のコピー

質問　回答 18

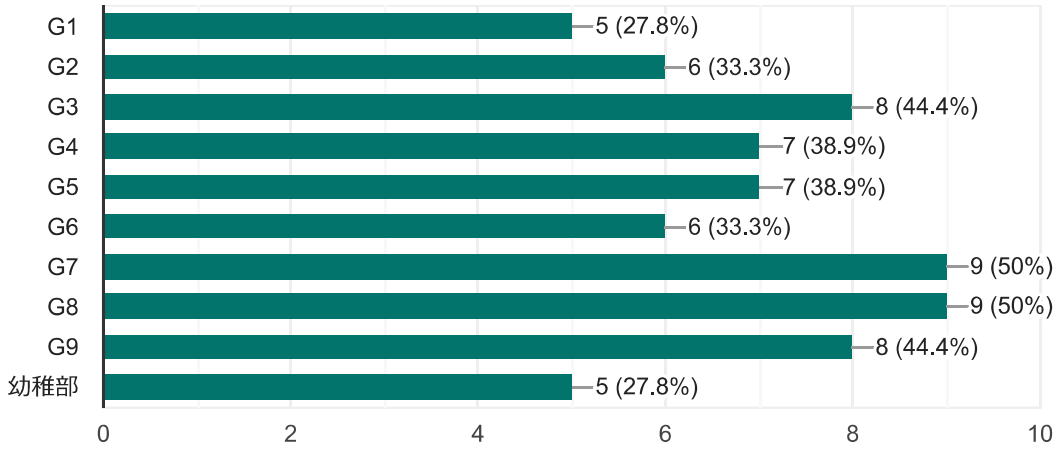
18 件の回答

回答を受付中

概要　質問　個別

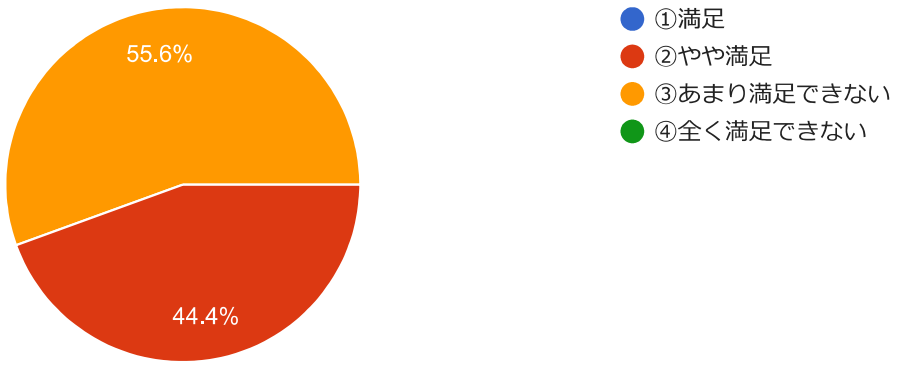
担当学年（授業を受け持たれている学年全てをチェックしてください）

18 件の回答



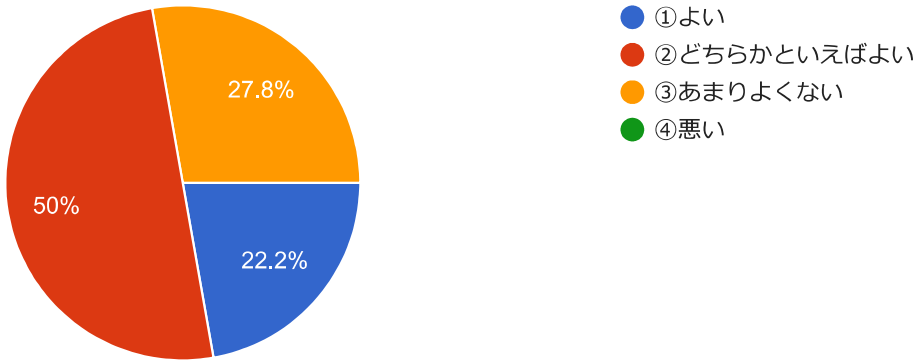
質問１　遠隔授業を約１か月行って，全体としての「満足度」を４段階で評価して下さい。

18 件の回答



質問２　遠隔授業における先生方の「通信環境」について教えて下さい。

18 件の回答



質問2の補足　質問２で「③あまりよくない」または「④悪い」を選んだ方は具体的に状況を教えてください。

6 件の回答

電波が悪くなり、途切れてしまう場合もある

途切れてしまったり、声がロボットのようになってしまったり、画面が固まってしまったりすることがある。

自分のWiFiやPCが不安点な時がある

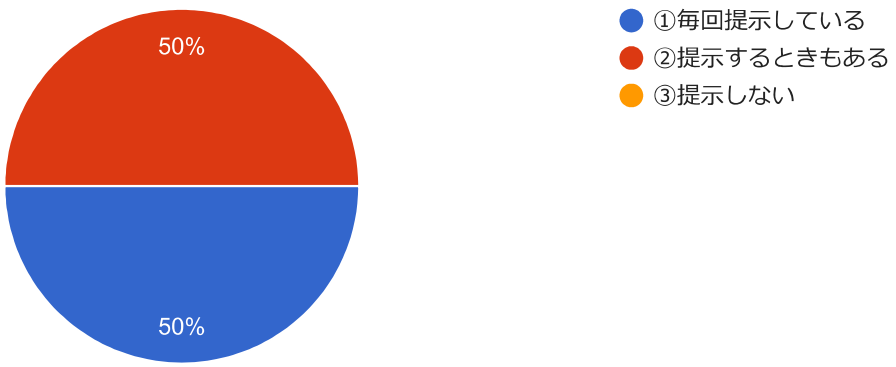
ネット回線はポケットWi-Fiを使用。通信制限もあるため。

回線工事が必要な住宅の為、Wi-Fiルーター使用中

停電で途切れる

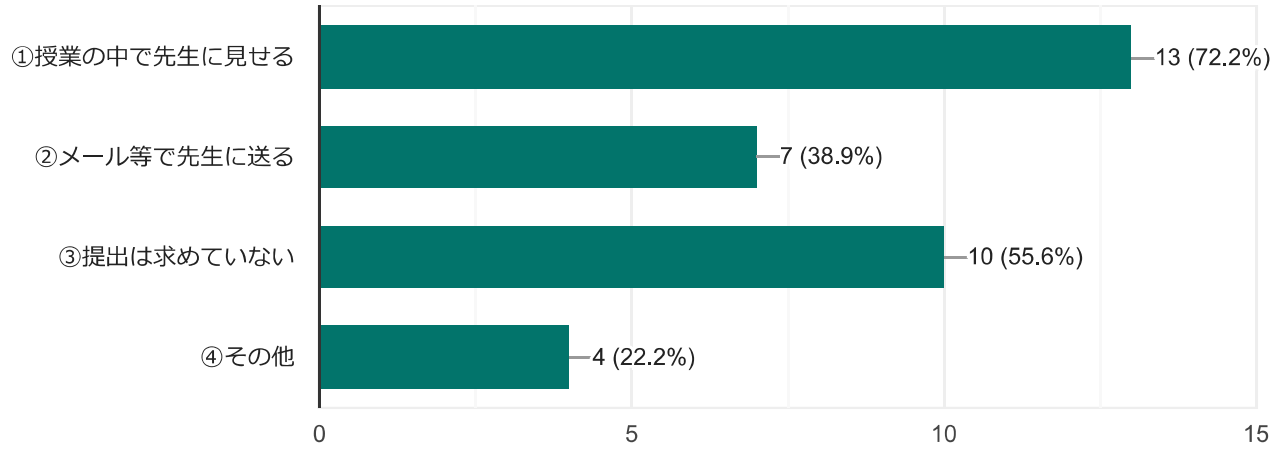
質問３　遠隔授業では「宿題（課題）」や「授業のふりかえり」を提示（出）していますか？

18 件の回答



質問４　質問３で①②を選択した先生方に質問します。それらの宿題（課題）や「授業のふりかえり」を、児童にどのように提出するように指示していますか。該当するものをすべて選択してください。

18 件の回答



質問4の補足　質問４で「④その他」を選んだ先生は、内容を具体的にお書きください

5 件の回答

G9の社会科では、発表に向けてのプレゼン資料を準備し、メール添付して送ってもらったことはあります。

文書の共同編集によって、1つのシートにみんなで書き込む。

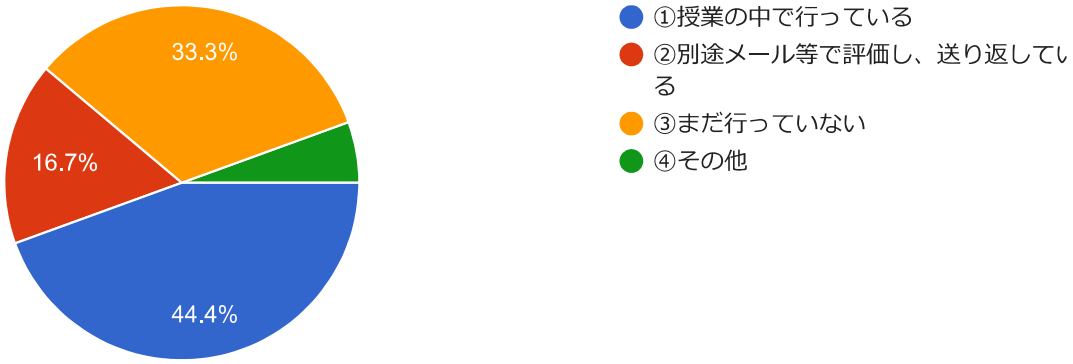
答え等を準備し、次の時間に提示している。

宿題を出しているのは中学生の授業のみです。図書の授業では出していません。

答え合わせなどはするので授業の中で課題を終えているかだけ見せてもらい、現物は開校後に提出してくださいと伝えてある。

質問５　それらの宿題（課題）や振り返りに対し、何らかのフィードバック（評価）を行っていますか？

18 件の回答



質問5の補足　質問５で「④その他」を選んだ先生は、内容を具体的にお書きください。

2 件の回答

提出物の有無のみ評価を残している

（質問5で複数回答ができなかったので書きます。）授業中にフィードバックできる際はしますが、作品作りなど時間がかかるものは、追って送っていただいた写真に返信で考察を伝え、いただいた写真をHPの幼稚部ページの中で他の子どもの写真と共にまとめて提示をしています。

質問６　遠隔授業で困っていることについて，何でもいいので思いつく限り沢山書いてください。（例　低学年の児童はすぐ疲れる。幼稚部ではできることが限られる。反応が見えない。理解度が把握できない。自分も疲れるなどなど）

18 件の回答

子供たちの反応が分かりにくい、ノート（理解度）を確認できない、談笑ができない、個別指導ができない

中学部は、特に時間が短いなと感じる。一日に４時間あると、さすがに目が疲れる。

zoomは声はよく拾うが、楽器の音色はよく拾えない。同時に声を出せないので「合わせる」活動は全くできない。技能がどの程度身に付いているのか、毎時間確認することは困難。低学年を集中させておくことは難しい。生徒によって、通信環境やPC操作の習熟度が違うのでそのあたりでつまずくことも。

提出物が見れない。体育で（低学年）いなくなってしまったり、やらない子がいても声がけしかできず、どうしようもない。書いているかどうかが見えない。発言しない子は何を思っているのかみてあげられない。体育で実際にもっと走らせたり、一緒に手をつながせたりしたいのに出来ず、やれることにも限界を感じる。まだ大丈夫だが、ネタがつきてしまいそう。進度が速い子たちにどんどん進ませたいのに、なかなかできない。進度が遅い子を個別で見てあげられない。ノートに何を書いているのか見たいが見れない。適当なおしゃべり時間がとれない。

子どものノートを見たいときに見ることができない。ミュートをかけるとつぶやきが拾えない。個別の支援がむずかしい。

１０年振りの算数科指導で、教材研究に時間がかかる。しかし、日本の教科書の優れた内容を改めて認識している。

子どもたちはよく頑張っていると思う。

疲れる。

それぞれの環境がバラバラ（通信機器の問題、通信環境が不安定）、近くでのノート指導ができない、授業中の提示資料作成に時間がかかる。タイムラグがあるので、全員で声をそろえて何か（音読やじゃんけんなど）することが難しい。30分といえど、集中力が対面授業より必要でストレスを感じやすい。目や耳が疲れやすい。

授業時間の制限

ネット環境、教材、道具もないので私費購入。経費面でどこまで対応して頂けるのか提示がないので不安です。

そばについて、話を聞いたり支援したりしてあげられないこと。

①授業を受けている児童、生徒の背景がわからないので、配慮が十分にできていないのではないかと心配です。（生徒の環境も含めて）②オンラインのシステムを十分に理解できてないため、機能を有効に使っていないと思います。

子どもたちの声を聞きたいので極力ミュートを解除して授業をすすめようと思うが、おしゃべりが多くなりこちらの声が遮られてしまうこともあり、ミュートをかけてほしいという保護者からの要望もある。
ミュートをかけてしまうと集中できない子は一人遊びを始めてします。
歌をたくさん歌いたいが、時差がありミュートもかけなければならずかなり難しい。

・児童の本来の姿が想像しづらい。・手元で何か別のことをしている児童がいるが、画面が全て出ていないので何をしているのかもわからず注意ができない。・特に低学年は、画面から消えたり寝転がったり、約束を守れない児童が数人いるが、逐一注意することもできない（気になるが、そこばかり注意していると進まない）・なるべく児童の発言の機会を多くするようにしているが、人数が多いクラスは、どうしても他の児童の発言を待つ時間が長くなりがち。それだけで時間が過ぎてしまう。・TTで教えているが、メインの先生の環境があまり良くなかったりするときにうまくフォローができない。（声の時間差や画面の途切れなど）・時間制限がきになる

課題をきちんと見ることができない。漢字等、細かいチェックがおろそかになっている。子どものできたという自己申告で授業を行っているが、取りこぼしが多い気がして、対面になった時がとても怖い。３５分の授業構成なので、対話の部分を授業にもってきているので、書く活動を宿題に頼ってしまう。反応が見えない。教師の説話など、遊びの部分が減ってしまった。

保護者が横にいるため、子どもの甘えが出る。保護者の過剰な支援。子どものたちの集中力が2コマで限界。直接的、手元からの支援ができない。生活上の保育支援ができない。全員に発言や発表を促しても、全員が答えられるわけではなく、授業後の保護者のフォローアップも家庭によって差があり、子どもの達成度を確認するのが難しい。子どもたちの中にはストレスで苦労している者もあり、心理的支援が難しい。（現在はメールやフェイストークなどして対応。）著作権に支障がないよう教材を選び準備することに限界を感じる。（歌、読み聞かせなど、ほとんどの活動で配慮が必要。）教材準備に異常なほどの時間がかかっている。

生徒達の反応をつかみにくい。実際にどれだけ理解しているか把握することが難しい。縦書き板書の見せ方に苦労する。美術の造形作品を作る際の材料を揃えにくいため、行いにくい。

質問７　遠隔授業で良かったと思うことについて，思いつく限りたくさん記入してください。（例　予定が立てやすい。反応が見えやすい。社会科の授業では資料が見えやすいなど利点が多い。中学部の生徒にとってはプレゼンスキルが上がるなどなど）

18 件の回答

授業時間が確保できている、できることが増えた（メールでの課題提出等）

社会科では、資料を提示しやすい。また、どの資料が適切かなどより吟味するので、授業の見通しは立てやすい。中学部では、One NoteやPowerpointを活用させている。ICTスキルの向上にも役立つ。

同じ資料をみんなでみる、ということに関しては、黒板やテレビで見せるよりも見せやすい。鑑賞で音楽を聴くときなど、一斉授業では先生が流したときに一斉に聴く形になるが、ドライブに入れておくことで、ここがもう一度聴いたい部分を何度でも聴くことができる。インターネットの豊富な資料を簡単に見せられる。チャット機能をうまく使えば、短時間で全員の考えを出させることができる。ICTを扱う能力が向上する。

通勤がないので、時間を有効につかえる。体育で前回のものをビデオで見ることができて、振り返りに有効。ミュートがあるのでうるさいときは静かにできる。共有でいろいろ見せるのが簡単なので普段使いづらいICTが可能になっている。宿題等お家の人も簡単に確認できる。

子どもたちがさまざまな地域にいるので、天気や動植物の情報を集めると面白い。ゲストティーチャーをよびやすい。

教師の言葉を明確にする訓練になっていると感じる。体育の大切さを改めて感じている。

全国にいる子どもたちが、「おはよう。」と言ってオンラインは入り、一緒に学び、考え、支えあうことができること。

１つも思いつかない

遠隔地にいても授業ができ児童と会える。黒板だと板書に時間がかかるが、児童の反応を見ながら画面共有ができ、簡単に資料提示や音声が出せる。ブレイクアウトルームを使ってのペアワーク（中学部）

意外にグループ討議が素早くでき、小グループの意見交流も活発に利用できている。

常に保護者の方が見られています。公開授業のようなプレッシャーは大きいですが、反面、毎回一緒に行っているので保護者の方々とのコミュニケーションも取りやすくなりました。

　まだ、よかったと思うことはありません。

①図書の授業については、一人一人の表情がよくわかります。②文法の授業については、黒板を使う授業より、生徒にはよく見えると思います。

スライドなど、子どもたちが一人ずつ画像でよく見えるのが良い。
制作の時の手順など一度ですべての子どもたちに見せられるのが良い。
保護者のサポートがあるので、制作などがスムーズにできる。

・児童、生徒の表情がよく見える。

授業が予定通りに進む。教材研究に時間をかけているので無駄がない。英語の授業はデジタル教材が個々の児童に見えやすく、とても有効である。

ICTを使った活動を今後再開した後も積極的に利用したいと思う。（ICTの本格的な導入については幼稚部はまだ。改めてお願いいたします。）

資料提示がしやすい。プレゼンの機会を与えやすい。

質問８　オンライン授業で苦労したことについて、思いつく限りたくさん具体的に記入してください。（例　保護者の協力を得ること、環境整備、画面を見る時間と演習時間とのバランスなどなど）

18 件の回答

授業環境の整備、子供たちとのコミュニケーション、個別指導

手元が見えないので、学習中生徒の理解度を把握するのが難しい。

提示する資料（現物）をデータ化する必要があること。

環境整備（Wi-Fi設置など）。体育で「そもそも何できるの？」と思った。保護者に授業準備についてどこまでお願いしていいのかわからない。支援が必要な子の支援方法。中学生女子のアイスブレーキング。たくさんの人数のノート把握。学習進度把握。保護者と人間関係が作りづらい。

子どもたちがする実験観察材料をそろえること、図工の材料、道具をそろえること。教師としても実験をするときに理科室でないのでとても不便。手をかしてあげたくてもできない。

初めての試みを進めることへの自分自身の躊躇。

環境整備

分からない子を置いてきぼりにしてると思う。主体的な学びを諦めた。

環境整備、提示資料作成、オンライン授業でのマナーについて理解、zoomの使い方、限られた時間での授業（45分から30分に）

体育の実技授業での指導。
時間差でできる、体操やリズム運動など。

親子YOGAを行っています。恥ずかしいと感じる保護者の方が意外に多く、呼んでも画面に入りたがらないで横で画面から外れて参加されている方もいらっしゃいます。プログラムを立てるのに、「予測される親の行動」まで立てなければならないと思いました。予想外に気を使います。

　指示や支援の難しさ。

①カメラやマイクがなかなか届かず、（品薄状態で）はらはらしました。②システムの機能に不案内で心配です。③図書については、絵本の読み聞かせ、朗読に関する著作権の問題で、苦闘しています。④長期にわたると、教材を用意しきれないかも、と心配です。（③の理由から）

著作権の関係から、絵本や紙芝居を読むことができない。代替えのものを手作りしなければならず、自分は絵を描いたりするのが苦手なので、その準備に苦戦している。
音楽系の活動を担当しており、ミュートをかけることで双方向での音のやり取りができないため、指導しづらい。
静かに画面に集中できる子どもに反して、すぐに声に出して返答したり不用意に声をだしてしまう子どももいて、該当児のみミュートをかけることもあるが、保護者は気分を害するのではと心配になる。

・接続状況 ・手元に資料や教材がないこと。

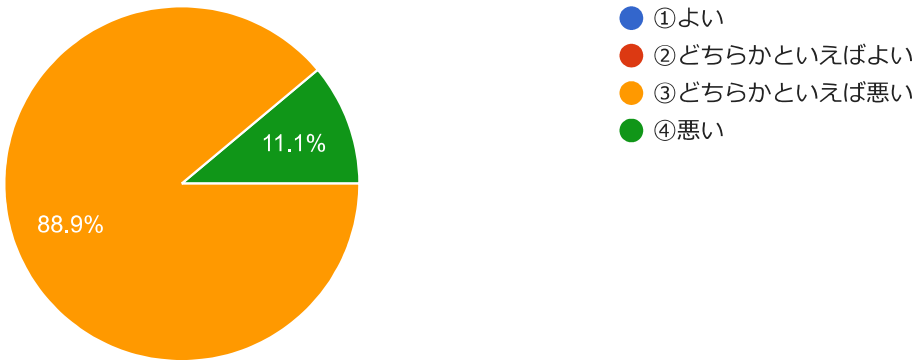
子どもの反応をつかみきれない。自分が一方的に話しているので孤独を感じる。Wifi環境が整わず実家にお世話になることになった（新規の契約は1か月以上かかると言われたので）。従来の授業スタイルからの変換。

オンライン授業の内容と構成のバランスの確立。限られた教材、画材などで危険のないよう行うこと。教材準備に異常な時間がかかり、プライベートの時間とのバランスがとれない。著作権。時差。

ｚｏｏｍに慣れるまでが苦労した。資料のｐｄｆ化やスキャン処理など、画面に資料を映すための準備が慣れるまで大変だった。副教材が手に入らないときは、課題作りに苦労した。

質問９　「対面授業」と比較して，どう思いますか。

18 件の回答



質問10　９の理由をご記入ください。

18 件の回答

子供たちの実態を把握することが難しい

机間指導ができない。生徒の表情やノートなどを見ながら支援することが難しい。

実技教科は、（小中学校段階では）対面でないと教えられないことが多い。一斉に声が出せない、合わせられないということは致命的。とはいえ、学校が始まったとしてもガイドラインに従えば、しばらくはそれはできないのだろうが。

体育など動く場所の確保がしにくいこと。用具が揃わない。子ども同士、教師と子ども同士のふれあいがなく、さびしい。教育活動も限られる。ただ、完全に悪いにしなかったのは、子ども同士、教師と子ども間で新型コロナなどのウイルスをうつすことがない安心感がある。その不安がないだけとてもありがたい。

対面授業とオンライン授業は、比較できない気がします。今まで経験のないオンライン授業は、不自由に思いますが、オンラインの良さもあるので、両方をうまく取り入れることで新しい教育方法も見えてくるかもしれません。

子供との掛け合いが難しい。だが、オンライン授業の可能性を模索し続けることが必要。

子どもたちに直接声をかけられる方が子どもたちの学習の見取りがしやすい。

自分がいい授業をしてるとは思えないから

学習の躾ができない、体験活動不足、運動不足、コミュニケーション不足

子どもたちのつぶやきがひろいにくい。
すぐに横に行っての個別指導がしにくい。

言語理解力に大きく差があります。未就学前の子供達には難しい、けれど親は難しいものを求める、画面上では他児と比べてしまうというプレッシャーが子供、保護者にも与えてしまうのではと思います。

　発達段階からいうと、対面の方がよいと思う。

①生徒と、空間の共有ができないから。（くみ取れる情報が少ない）

幼児期のお友だちとの関わりによる学びや、自立を促す活動ができない。
スライドによる視覚の学びのみになり、体感させることができない。
子どもたちそれぞれの声を、その都度聞いてあげることが難しい。

対面授業は未経験なので比較ができませんが、特に英会話は、大人数でオンラインでするには無理があるかと思います。少人数（５－６人まで）ならできることも増えてくるかと思いますが、自分がズームの利点をうまく使いこなせていないことも問題かと思います。英会話に関してはオンライン授業の利点をあまり感じません。

やはり子どもたちが自由に自分の気持ちを表現できないこと。話す順番を待ったり、ミュートにしたり、休憩時間のたわいもないお話ができなかったり、友達と触れ合ったり、、、、。そういった当たり前のことができないこと。

比較する状況にもよると思いますが、現在の状況ですと、生活を通した保育支援ができないのは痛手です。

生徒同士の関わりが少なくなるから。同じ場所で学習することでしか感じ取れない生徒の様子とか反応とかがつかみにくいから。

質問11　遠隔授業をより良いものとするために提案等があればご記入ください。

15 件の回答

個別指導の時間を確保する（例えば、授業の中で１人５分程度など）

Google for Educationを導入すれば、提出物や出欠の管理や連絡などがスムーズにいくと思う。

課題の提出→フィードバックを行って、こまめに到達度を測れるようになるとよいだろう。しかし、すべての教科で一斉に行ったのでは生徒の負担過重になりかねない。配慮した上での取り組みが必要だ。

ブレイクアウトルームの活用（進度の早い子は他の先生にみてもらい、遅い子を集中して教える機会を作る。など）ただ、あまり無理をしない。

みんなで遠隔授業について話すこと。オンラインでなく、対面で話すと見えてくることがあるように思います。

教師自身が落ち着くこと。笑顔で授業を進め、子供を安心させること。　　レポートを参考にしてください。

それぞれの学年の実態や教科の特性の違いがある中で、今現在、少しでも健やかな子どもたちの成長を願ってオンライン授業しているので、個々の実践を尊重していきたい。

休みが欲しい

数をこなしていく。
失敗しても試していき、いい事、技術的なことなど共有していく。

時間割、カリキュラム、担当時数等を幼稚部内だけではなく、学校管理職の皆様にも把握して頂きご教授頂ければと思います。

私としては、①システムの機能をきちんと理解して有効に利用するための勉強をしたいと思います。

幼児向けのオンライン動画などを参考に、子どもたちが楽しめる授業をさらに研究したいと思います。

今後、研修等を行ってTTの仕方を探る。課題の提出方法を探る。ノート点検の方法を探るなど、これまでは教師からの授業をきちんと聞ける環境づくりと、慣れる場で十分であったが、今後は双方向の授業展開子どもからの要求にこたえていく段階であると思う。

子どもたち、保護者の意見をアンケートなどで定期的に調査する。

ちょっとした技とか方法とかを共有する場があると、お互い勉強になってよいと思う。

お名前

18 件の回答

稲川　正善

岡本竜也

渡部一樹

久保田智絵美

松川　裕代

加藤雅博

東田　知壽子

江口優

福島正世

若竹　光司

阿部　友美

山本　眞珠子

副島正子

　前田　美保

水口知香

沖本美佳

クラーク潤子

富永　知香

アンケートその２

質問 回答 18

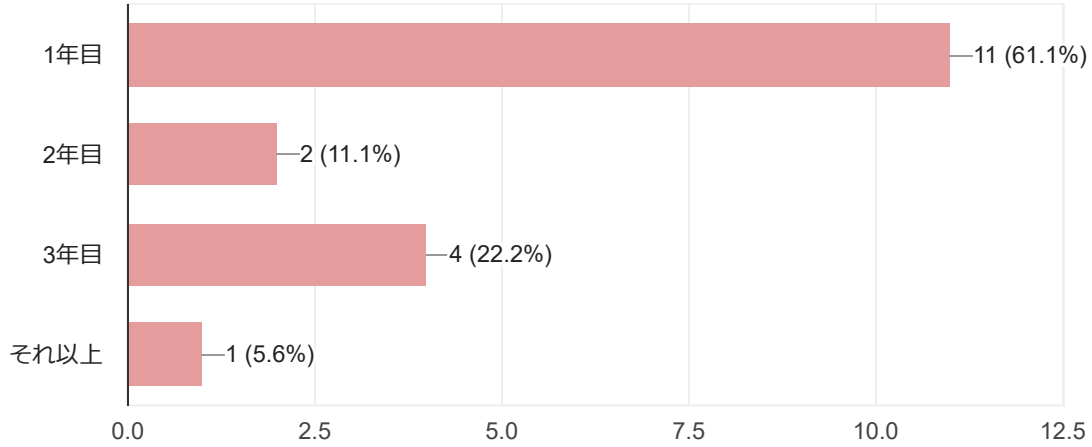
18 件の回答

回答を受付中

概要 質問 個別

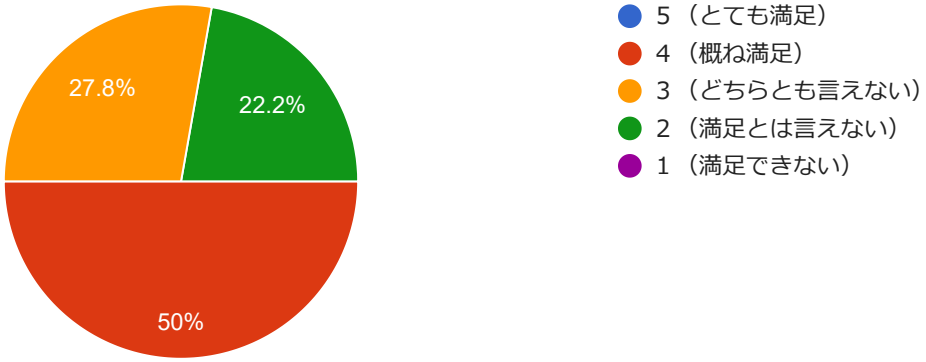
派遣何年目ですか？（現地採用教員の方は勤務年数でお答えください）

18 件の回答



質問１　遠隔授業を約４か月行って，全体としての「満足度」を５段階で評価して下さい。（5が満足度が高い）

18 件の回答



質問２　１学期に行った「双方向オンライン授業」でついて、子どもたちの反応や感触はいかがでしたか。いくつでもよいので書いてください。

17 件の回答

学年によって反応の差はすごくありました。30分は高学年以上には短く感じましたが、低学年には限界だと思いました。

楽しみにしていた子どもたちが多かったと思います。保護者からもそのように聞いています。録画を見ながら実験したり、絵をかいたり、工作したりして結果を送ってくれた子もいます。
以下は、感想をメールでよせてくれた子のコピーです。

オンラインでは、私たちは実験できないので理科はどうやったら一番いいのかな？と少し心配していましたが、全く心配は必要ありませんでした。
先生が丁寧に用意してくださったおかげで、オンラインで実験を見て学ぶことができました。とても分かりやすかったです。
それ以外にも、実験結果を予想してみたり、自分で考察をまとめてみたり、考える理科の授業になっていて、楽しかったです。自分で調べて、レポートにしてみたりするのも楽しかったです。

オンライン授業になれてきた

・子供たちの反応はつかみにくく、実態を把握するのはやはり難しい。
・反応として、習熟度を確認し、評価することが難しかった。

オンライン授業の中であっても、子ども同士の言葉のキャッチボールが見られる場面があり、学習内容の理解のみならず、深まりをみせることができた。

・最初は慣れない環境でしたが、子どもたちはとてもよく勉強をしたと思います。特に、普段あまり発表しない子も堂々と意見を言えたり、不登校気味で学校にあまりこれなかった子もたまに参加できたり、新しい教育スタイルだなと実感しました。

画面越しでも意欲を持って明るく頑張っている児童生徒が多い。課題の提出状況は、個人差が大きい。

デバイスの操作方法に少しずつ慣れ、当初よりできることも増えた。

反応がよくわからない

始めた当初より、お互い落ちついて授業をできているかと思う。

就学前の子どもたちをPCを通して30分以上も集中させることができたということは、子どもたちを惹きつけられる内容であった、子どもたちの反応、感触が良かった結果だと思います。

スタート時は２クラス合同だったため、年長児は問いかけに活発に答えたり反応も早かったのに比べて、年中児は押され気味で反応も控えめな様子だったが、５月最終週からクラス別活動の時間を増やしたところ、こちらの目もよく行き届くようになり会話も徐々にできるようになってきた。

毎時間オンラインで繋がった瞬間に笑顔で挨拶をして話しかけてくれる表情から、授業を楽しみに待っていてくれている様子が伝わってきた。

図書の授業では、お話を聞くだけでなく、それぞれが今読んでいる本の紹介や、知識の交換、子どもからのなぞなそなどのやりとりができて、だんだん活発になったのが良かったと思います。（小学校１～３年生）

真面目に取り組んでいる。

慣れてきたのか、授業にもスムーズに参加でき、困ったことも少なくなってきた。

・画面共有を通して提示資料や板書を確認することができるので、授業内容が分かりやすいと答える子どもが数名いた。分かりにくいところは録画で確認することができるのがいいと答える子どももいる。
・画面越しの授業なので教師の目が届きにくく、授業内容以外のことをやっている生徒が数人いた。

とてもよく頑張ってくれた。まず、オンラインに毎朝きてくれること、顔を画面に映しておくこと、話を聞くこと、発言すること、とても頑張ってくれた。初めて会った（画面上でしか会ってないが）が、ちゃんと担任として、教科担当として授業に協力的だった。一部の子は、オンラインに来れなかったり、顔を映すのが嫌だったりで毎回会えず心配になった。

質問３　１学期に行った「双方向オンライン授業」で先生が感じる良かったこと、できたことなどの成果をいくつでもよいので書いてください。

17 件の回答

ブレイクアウトルームを使うことによって、学習に苦手意識のある生徒をフォローできたことがよかったと思います。

・日本全国とミャンマーをつないで、季節の写真交換やリアルタイムで天気の学習ができたのは、「双方向オンライン授業」だからこそできた授業だったと思う。
・Zoom画面に　なかなかヤンゴンに呼べないGTを呼び込めたのも「双方向オンライン授業」だからこそできた授業だったと思う。
・Zoomによる単元毎の作品展ができた。
・児童生徒がやるべき実験・観察は、できるかぎりは、やった。それぞれの家庭でやることになるので保護者の協力が欠かせないが、協力していただきありがたかった。
・図工の用意などにも協力していただいた。感謝している。
・私の部屋でできる限りの演示実験をした。NHK for schoolの実験動画も良いが、はらはらどきどきしながら見る演示実験は、また違って印象に残ったようだ。

学校の生活リズム(授業・休み時間)が、身に付いてきた

・授業進度を遅れずに進めることができた。
・オンラインでしかできない授業に臨むことができた。

少人数であることもあり、一人一人へも見取りの時間を多くとることができた。

・学校がオンラインという形だけれども、オープンでき、ミャンマーにいるここの学校にしか行けない子供たちにきちんと教育ができたこと。ブレークアウトや画面共有また、単元テストなど対面に近い形まで教育内容を高められたこと。

離れていても学びを止めず、継続することができた。オンラインの利点を生かして、ネット上のさまざなまコンテンツを自ら見つけ、学びを深められる生徒が増えた。生徒のICT活用の活用能力がレベルアップしている。

クラスルームを取り入れたことで、書いたものをチェックできるようになった。

ない

社会科なので、資料をスムーズに示すことができた。教材研究がしっかりできる。

ダンスやリトミックを授業に取り入れていました。少しずつ学び、最後の週に発表会を行いました。各ご家庭でご用意出来る衣装を着て、PCの前で緊張した子どもたちが参加しました。発表会終了後、子どもたちは達成感に溢れた表情を見せてくれました。学び～発表まで、という順序をオンライン授業で組めたのも、保護者の方々のご理解と、教師と園児から昨年度より深い信頼関係を築けていたということが大きな理由であったかと思います。成果をみんなで共感できた時間となりました。

とにかく毎日顔を見ることができたことが、何より安心できて良かった。

ピアニカ練習や製作、運動する姿を保護者にそばで見てもらうことで、子どもたちそれぞれの様子を知

っていただくことができ、同時に支援をしていただくことで子どもたちも保護者と一緒に楽しめる時間を持てたことが良かったと感じる。

製作する過程や絵や写真などのスライドを、一人ひとり同じ条件で示したり見せられることができ（教室では後ろの列だと見えにくかったり、一人ひとりに何度も説明しないと伝わらなかったり、、）、今後の教室での活動でもぜひ活用したいと思った。

著作権の問題があり、悩みましたが、自分で文章を作り、絵を描くのにも慣れてきて、こつがつかめてからはなんとか進めることができました。
子ども達も、学校に行けず、制限の多い生活だと思うので、気持ちがほっとする楽しい時間にすることをいちばんに考えました。

毎日授業で会うことができ、人間関係ができた。
日々の授業を積み重ね、指導計画を終えることができた。

ペア学習

・zoomを使いこなせるようになった。また、オンライン授業で使うonenoteやpowerpoint、google classroomなど、ICTに関するツールを使いこなせるようになってきた。

1学期の学習の提供はある程度できた。子どもたちの頑張りを認めることがある程度できた。子どもたちの苦手部分を把握したり、それに対して復習を行ったりすることがある程度できた。グーグルクラスルームも併用して、テスト（厳密なものではないが）、採点ができた。体育の授業で楽しく体を動かすことができた。運動を日常で行うよう指導し、それをしたかどうか口頭で確認できた。オンライン（４０分）以外の演習を支持し、オンライン以外の時間も学習することを指示することができた。それを行ったかどうかは、口頭確認できた。

質問４　１学期に行った「双方向オンライン授業」で先生が感じる困ったこと、できなかったことなどの課題をいくつでもよいので書いてください。

16 件の回答

・各ご家庭におまかせできる実験観察には、道具や安全面の問題もあって、範囲が限られること。同様に理科室でない自分の部屋でやる実験にも道具や安全面で、限界がある。実感を伴う理解をさせることに、難しさを感じる。
・子どもの手元が見えにくい。思考の過程や作業の様子を見取りにくい。
・道具がそろわないことで、指導が十分できないことがある。

学習規律の徹底と細やかな支援

・子供たちの実態の把握をすることが難しかった。

対面での声掛けができないため、細かい支援が対面での指導より難しいと感じた。

・一番は子供同士のつながり。休憩時間に気軽に話す環境、じゃれあう環境、ちっと授業を脱線するゆとり、、、。毎回毎回の授業が時間と内容をきちんと進めることに重点が置かれてしまい、今日は進まなかったなあなんてことがなかった。子どもにとっては遊びも必要だったと思う。

音を合わせる活動、実技の丁寧な見取り。

通信環境が不安定なこと。児童生徒が解答したものに信憑性がもてないこと。

双方向とはいえなかった。どうしたらいいかわからない

生徒の手元が見えない。反応をとらえにくい。

授業に参加出来ない(日本の幼稚園へ通い始めた)等の理由で、保護者の方が申し訳ないという内容のメールや次の授業で出した課題を動画で送ってくださったりとしていました。欠席の子どもたちがいるという想定で授業を進めていましたが、律儀なご家庭は一生懸命に協力してくださるので、やりづらいところがありました。

歌をうたったりピアニカの練習をする時にはミュートにしないと音がとんでしまうため、お互いの声や音を聞きながら一緒に楽しむということができなかった。

製作の時間など、保護者がそばで必要以上に介入し、子どもの自由に作りたい気持ちを潰してしまっていると感じることがあった。

保護者が授業中に子どもの周りを徘徊し（時には下着姿で、、）集中力をそがれることがあった。

保護者などが横で見ているためか、運動や歌をうたうことが恥ずかしくためらう子どもがいた。

絵本の読み聞かせなどが、著作権の関係でできなかった。

①図書の授業では、著作権が切れた作品を対象にするので、選択の幅がとても限られることが悩みです。これでいつまで見つけられるのか、心配です。
②中学生の文法の授業では、学力の差や、意欲の違いなどが感じられます。また、小学生と異なり、ス

トレートに気持ちを出さないので、反応がわかりにくいと思います。まだ直接会ったことがないのも、こちらの不安の種だと思います。
③Zoomやclassroomのような新しいことになかなかついていけません。
学級で授業がわからない生徒もこんな気持ちなのかなあと思いました。職員室でなら、気軽にきけることも、離れているとつい一人で悩んでしまいます。たぶん、生徒達も同じだろうと思いました。
④小学部会や中学部会のような場に参加していないので、他の先生方からの情報が少ないと思います。2学期、G9の授業も入るので、できたら中学部会に参加させていただきたいと思います。

体育は指導が難しい。
教材研究に時間がかかる。

特に実技教科で、児童生徒の学習環境に大きな差があり、できるできないの差がでてきている。

・ブレイクアウトルームを使って話し合いを行う場合、それぞれのグループの話し合いの様子を全体的に把握することができないこと。
・工作などの実技がしにくいこと。特に共通した材料を準備して行う実技に関しては、困難さを感じた。

体育の場所、物が揃わず、また安全面が確保できないことから、表現、体つくり以外の学習ができないこと。国語の「漢字辞典」や算数の「分度器」などの準備品が整わず、学習がやりずらかったし、それが整ってから復習が必要である。授業中のノートや演習で行った課題を見ることができていない。支援の必要な子への支援がやりにくい。休み時間などコミュニケーションをとる時間が少ないこと。視力など健康上の問題が発生していると思うが、それを図ることもできないし、今後一層の心配がある。

質問５　日本の公立小学校で１学期に双方向オンライン授業を実施できたのは1割以下です。ヤンゴン日本人学校で、双方向オンライン授業が実施できたのはなぜだと思いますか？理由をいくつでもよいので書いてください。

17 件の回答

・学校側でテクニカルの面で指導をしてくださる先生がいらっしゃったことがもっとも大きいかと思います。わからないことがあってもすぐに聞くことができました。・環境を充分でなくとも整えることができたこと（タブレットの貸し出しなど含めて）。日本の公立学校では、全てが一律に揃わない（周辺機器、インターネット環境などなど・・）と踏み切らなかった現状がありますが、日本人学校では、ある程度の環境が揃ったところで踏み切ったので、それに対して保護者側もできる限りの環境を整えてくれたこと。・保護者の協力があったこと。

・子どもたちに端末やWIFIの環境があったこと。
・子どもたちの学びを止めないという方針に教職員と保護者が一致して協力できたこと。
・特にZoomの使い方についてすぐに対応し、教えてくださった先生方には、心から感謝しています。何人もの先生にお世話になりました。

保護者のみなさまの協力と支援のおかげ
オンライン授業を実施するための準備や研修、様々なサポートを得ることができた　　ありがとうございました

・オンラインでしか授業を実施できない環境について全職員が理解し、予め実施すること前提として話合いが行われ、システムを構築することができたから。

保護者の方の理解と協力があったため。

オンラインで授業をしようと思った先生方の努力＋PTAのICTにたけた方からのアドバイス＋オンライン授業を応援して下さった保護者の皆様。このすべてが絡まってできたことだと思います。どれか一つでも掛けたら小さなほころびができたと思います。

各家庭の理解と通信環境、PTA副会長さん方の強力なバックアップ、先生方の前向きな姿勢

通信環境やデバイスがある程度準備できたこと。

意欲的な先生たちがいたから。

教職員、PTA、スタッフ皆が力を合わせたこと。ヤンゴンに残ったメンバーで、オンライン授業に向けた軸をつくったこと。

前年度の実績、保護者と生徒(園児)との信頼関係があったからだったと思います。信頼関係を築いて下さった帰任された先生方にも感謝です。

海外在住者は日本との連絡のためにインターネットが必要となるので、ほとんどの家庭がネット環境を整えている。

タブレットを貸し出し、ハード面も配慮できた。

保護者が在宅している家庭が多く、保護者の支援のもと小さい学年の子どもたちも授業に参加できた。

①学校の規模が小さいことが一番大きいと思います。対象の生徒が数百人だと、環境を整えるのも難しいのではないでしょうか。また、40人を相手に画面で授業をするのも困難ではないかと思います。
②渡部先生に教えていただくことが多かったのですが、いつでも即対応していただけたのが有り難く、一人ではとてもできませんでした。わからないときはどうするか、わかっていることが大切だと思います。
③保護者の方の協力が得られたことも大きいのではないでしょうか。（特に低学年）。公立小学校では、無理なところがあると思います。

通信インフラが整っていた。通信インフラをオンライン授業に向けて整える技術をもった保護者と教員がいた。

保護者の協力
家庭環境

・ＩＣＴに詳しい渡部先生がいること。・校長・教頭の適切な判断。

保護者のご理解・ご協力のおかげ。子どもたちのインターネット状況がある程度整っていた。もしくは、整えてもらったこと。子どもたちが協力的だったこと。オンライン授業に詳しく指南役を買って出てくださった先生のおかげ。その周辺のこと（保護者会長などとの連絡や環境整備、実際の授業を想定しての準備等）を積極的にすすめてくださった先生方のおかげ。出来なかったらではなく、何事にも前向きに取り組んできた先生方のおかげ。校長先生や教頭先生の前向きな判断のおかげ。困ったことや担任等への意見など教頭先生が全部請け負って話を聞いてくださったおかげ。（授業に集中できた。）

質問６　２学期に先生が双方向オンラインで授業実践したいと思うことは何ですか。いくつでもよいので書いてください。

16 件の回答

ブレイクアウトルームを積極的に使う

・個人的に新しい端末を手にいれたので、授業や評価に取り入れていきたい。

考えや思いを伝え合う授業

・別々の場所にいるからこそできる授業実践
例
・現地リポート
・コロナ禍で思うこと（自分のいる環境を踏まえて、良かったことや足りなかったことについて考えていることを発表する会など、コロナによって変わらざるを得なかったことについて振り返り、それを聞く機会が欲しい。）

子どもたちが生き生きと表現できるよう、子どもを中心にした学習計画やねらいを立てていく。

１学期は何とか授業を進める。子どもに教育を保証することで精いっぱいだったところがあったと思うので、少し余裕をもって子どもの心に寄り添いたい。このままどうなるのだろうか？と悩む子供たちの声を聞き無機質な授業だけではなく、余談なども上手に取り入れたい。・あとは子どもたちのプレゼンの場を増やしたい。総合的な学習も始まるのでオンライン上で調べて発表する技能を習得させたい（高学年以上）

創作の授業、成績を付けることを前提により丁寧な見取りをする。

現地スタッフや外部の方との交流

自分で学びを深める時間をもっと確保する

日本の幼稚園の子どもたちと交流をしてみたいです。異文化交流、グローバル教育を通して子どもたち同士が仲良くなり、手紙交換などをしていくのも楽しいかと思います。日本の幼稚園の子どもたちは、海外に住んでいる日本人に対しても「外国人」のような認識を持っています。ミャンマーの文化を日本に住んでいる子どもたちにアウトプットし、学びの視野を広げてあげたいです。

動物園や公園などに行き、オンラインで自然にふれあう機会をつくりたい。

①図書の授業では、児童からの発表の機会を多く作りたいと思います。
②classroomを使いこなして課題の添削をしたいと思います。

グーグルクラスルームを活用し、ノート指導や理解力調査を進める。

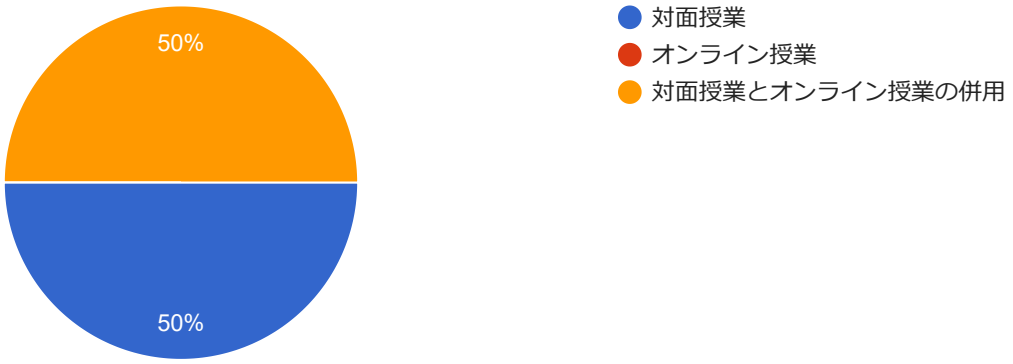
インタビュー形式や他校（日本の学校）との交流

・１学期にできなかった実技の授業。材料は各自の創意工夫に任せてやってみるのも面白いと思うから。

日本の学校の子どもたちと新聞交流をしたり、オンライン授業で交流（日本とミャンマーの同じところ違うところを知る。お互いの課題を持つ）したりしたい。体育のダンスの評価（中学生）。もしできるなら、オンライン込みの運動会

質問７　今後、先生はできればどのような形で授業を行いたいですか。

18 件の回答



質問８　今後本校では対面授業とオンライン授業を併用することが検討されています。そのことについて、効果と課題など、先生のご意見を自由にお書きください。

17 件の回答

対面授業が基本だと思いますが、オンラインは、物理的に移動ができない方とのコミュニケーションが取れることがメリットの一つだと思います。また、子供たち側も対面とオンライン、両方の授業形式の得て不得手があるかと思いました。個人的には、パソコンの静止画像ではない画面を集中して見ているのがすごく疲れます。

・理科に関していえば、ネット環境を利用したより良い授業が構成できる可能性がある。
・観察・実験については、課題がある。演示実験にしても理科室でない場所（自分の部屋）での実験は、限界がある。また、子どもたちに教材セットが配布できれば、かなり状況が改善される単元もある。既成の動画画面を眺めさせているだけでは、実感を伴った理解をさせることは、むずかしいと考える。
・図工についても道具がそろえられることで、内容も広がるし、より楽しく学習活動ができる可能性がある。

効果が得られるよう努力し続けたい

・効果は、授業が対面式で行えれば、オンラインではできない実践が可能になり、より多くの手法で子供たちにアプローチをすることができる。
・課題は、やはり評価と実態の把握だと思う。

グローバル人材育成が学校経営の柱となっているが、オンラインでヤンゴン日本人学校と日本の学校や現地校との交流活動に生かせると思う。課題としては、授業の中で子どもと教師が安心して授業を組み立てられるように、ICT支援委員の方の人材活用が必須条件だと感じている。

課題；結局１年間ずっとオンラインで参加する生徒もいると思うので、仕方ないと思うが、なかなか評価をするのが難しいと思われる。評価の方法をこれまでのテストではないものに検討していく必要がある。
効果；いわゆる日本の塾のようなサテライト教室の感じになるのだろうか？子どもたちがお互いに刺激しあいながら勉強に励めると思う。また、ミャンマーと日本をつなぐ題材がたくさん作れる気がする。

現状を考えると、すぐに対面授業のみに切り替わることは難しく、併用になるのが必然だろう。しかし、併用が一番難しいと思う。画面のこっち側と向こう側、両方に気を配らねばならない。また、黒板を使う場合には、画面に映る範囲なども気にせねばならない。

評価については、もっと話し合う必要があるのではないかと思います。対面での評価とは全く異なるので、オンライン授業独自の評価で（はっきりと評価できないものは現段階では行わない等）検討していく必要があると思います。（特に受験に関わらない児童・生徒については）

併用だとオンラインで受講する子どもは板書が見にくそうだなあと思います。とくにスマホからだと、字が見えるのかな？

様々なトラブルに対応できる効果、課題は時差や授業時数をどうするか、オンラインのみ参加の生徒へのフォロー

幼児教育では教科書や必要単位などありません。全てオリジナルで行っております。現在日本でオンライン授業を続けている園もありません。それでもオンライン授業に参加したいと言ってくださる利用者(保護者、園児)のニーズを聞いて、それに合わせたものを提供していければ、お互いに納得したものができるのではと思います。

アナログ世代なのですが、機材の使い方・ソフトの使い方などを学ぶ努力をしたいと思います。

私自身が学校にいて、図書室を活用し、教室の授業を中心にして、教室に来られない生徒にはオンラインで配信するという形が理想です。そうすると、扱う図書の範囲も多様にできるし、著作権の縛りも解消されます。

直接授業を受ける児童とオンラインで授業を受ける児童の２組になる。そのことで、①授業理解の差、②人間関係のつくりの差、③両者への指導のため、指導が複雑になる。

対面の授業を中心に、オンライン上で受ける児童生徒がおいてけぼりにならないように気をつけたい。

・対面授業によって、子どもの様子を把握しながら授業を進めることができる。
・オンラインで授業を受けている子の学習理解度がはっきりと把握できないことが課題。

効果：オンラインがあることで、学校に来れない子どもたち（ミャンマーに戻れない）に学習を提供できる。つながれる。オンラインを使うことで他の国や地域の子どもたちとつながりやすい。教員がミャンマーにいなくてもオンラインである程度の学習を提供できる。併用することによって、オンラインの子たちは学校にいる子たちの様子を見れて、やる気が増すのではないか。
課題：オンラインでは体育、技術など安全面の確保が難しい教科の学習の提供ができにくい。対面授業を受けている子とオンラインを受けている子のギャップが起こる。例えば水泳学習に行く場合は、オンラインの子は見ることだけ。体育のマットをする子とみる子など。

質問９　今回のコロナ禍で、日本の公立学校は諸外国と比較してICTの活用が遅れていることが明らかになりました。先駆者として何をどのような方策で改善すればよいと思いますか。ご意見を自由にお書きください。

15 件の回答

環境整備。ICTのことよくわからないので、具体的なことは言えませんが・・。公立学校としてクリアしないといけない問題が山積みなのかと思いますが、民間とタグを組んで早急にシステムを構築することが必要かと思います。

ICT活用については、予算が必要。一人一台が十分にある環境と、何台かを使いまわす環境では、全くちがう。

ICTの環境整備

・Free Wi-fi の環境を整備すること。
・教育の現場に予算を割くこと。（ICT機器はもちろん、教員数の増加により職員に余裕が生まれ、創造的な学校になると思う。）

以前勤めている市では、環境を整えることも大切であるが、整備が100%でなくても、まずやってみること、そこから学ぶことが大切であると言われていた。ICT推進リーダーを中心に研修をし、一歩でも進めていくことであると感じている。

・日本は厳しいけセキュリティー問題が一番ハードルが高いと思う。教師の子どもたちのためにやってみよう！という発想が事務的なことでことごとくブロックされるのではないかと思われる。新しいことを始めるときは少し勇気がいるがやってみたら意外にうまくいくもんだと思うので、マイナス面ばかりに神経を集中させるのではなく、とにかくやってみようの気持ちで動けたらうまくいくと思う。

国内の学校は、ICTセキュリティのレベルがとても高く、教員自身が設定を勝手に変えたり、ソフトをインストールしたりできない。よって、気軽にオンライン会議などはできない。必要と判断したならば、端末も使い方の研修もソフトもすべてセットですぐに現場で使えるように一気に導入すべき。端末だけ手に入っても、現場では使えない。

できない言い訳を探すのではなく、知恵を絞る

海外駐在員の方々のご家庭は、日本の平均よりもかなり高所得のご家庭です。一般的な日本の家庭、特に地方では生活水準の格差が大きく、ネット環境やタブレットを提供すればという問題ではありません。水準の低い家庭では、十分に教育を受けられなかった、ICTについての知識も不十分であるという家庭(親)が多いのが実情です。親世代からのICT教育、ネット、タブレットの支給等、根本的な部分からの支援が必要になるのではないかと思います。

大型モニターをもっと活用してビデオ教材を見たり、絵本や製作過程の紹介をする。

保護者への連絡やおたよりをネットで配信する。

教員間で保育の質の向上に取り組み研修資料を共有する。

学校に行けないからオンラインで、というのではなく、教室での授業でも活用して新しい授業のあり方を考えていければ、と思います。普段から使って、使い方を広げていくのが理想です。教科書、黒板、

ノート、プリント、タブレットが授業の用具になる感じです。（私自身はまだそのレベルではありませんが。）

20年前、インターネット社会の到来と言われたが、40台のPCにISDN回線2台でその目的達成を求められた。デジタルの条件整備を推進者が全く分かっていなかった。高度な知識と技術を待った人が、ハード面の整備と教育活動への連結を進めないと、ICT教育は迷走する。

ネット環境の確保とハード面の確保
授業者側の心構え

・一人一台ダブレットが使えるなど、各自治体でＩＣＴ機器の導入を進める。（実際に今、進められていると思う。）
・教師がＩＣＴ機器を使えるように、研修の機会を増やす。
・Wi-Fi環境の整備。

ネット回線の整備、タブレットの購入等環境整備がまずは必要だと思う。

質問10　1学期は過去に例のない大きな経験の連続でした。また、今後の展開も手探りで進めていくことが予想されます。子どもたち、保護者のみなさま、先生ご自身について、なんでも結構ですので、感じていることをお書きください。

15 件の回答

先が見えず不安はありますが、１学期のはじめも同様でした。それでも４ヶ月なんとか乗り切りました。先生方も保護者もそして、何より子供たちも見えない苦労やトラブルがたくさんあったかと思います。このような状況ですので、シナリオ通りに行かないことも多くあると思いますが、臨機応変に対応できる、柔軟な姿勢が必要かと思います。

オンライン授業について全く知らないとハードルは、とても高いが、パソコンとWIFI環境があって、使い方を教えてくれる先生やわからないことを聞き合える環境、情報交換の場があって、保護者と先生たちが協力できれば、ハードルは、とても低いと思います。パソコンに詳しくない私にオンライン授業ができるとは、思いませんでした。皆様に感謝しています。

保護者のみなさまの協力と支援に感謝しています。
子どもたちが、オンライン授業に参加し、がんばって勉強していることにも感謝しています。

・三位一体となり、建設的な意見を出し合えるような環境を皆さんの協力で創っていきたい。

互いの立場に思いをはせ、声をかけあい、誰もが安心して取り組んでいけるようにしていきたい。

１学期間はオンラインで、、、というのは既定路線でしたので教師も保護者も納得の日々でした。しかし、２学期からは対面ができる、学校に行けると思っていた部分があります。それが、現実的に難しいことが分かってきた今、さあここからが一番大変な気がします。それはモチベーションの維持です。同じことをやっていても保護者は満足しないかもしれませんし、教師としても子どもの進路に関しての取り組み、最終的な要録作成に向けてどのようにしていかないといけないのか課題は山積みです。１学期後回しにしていたこれらの課題にオンラインで向き合うことになりそうなので、それぞれの教員が思っていることをきちんと話してより良い教育活動ができるようにしていきたい。

オンライン授業がかなり長くなっており、モチベーションの維持が課題かもしれない。児童生徒も、教員側も。

一番感動したのは、PTAの方々の協力である。こういった状況で、大切なのは「自分だけではなく、周りのために」という意識だと思う。お互いに支え合い、与えられたことだけではなく自分にできることを考え、実行すればもっと良い日本人学校になると思う。

自身の不安や心配ばかりが先になり、大好きな仕事を十分に楽しめていない自分がいました。夏休み期間に少しリフレッシュをさせていただきました。二学期、より良い授業を提供できるように頑張ります。

在宅でのオンライン授業が続き、子どもたちも私自身も体を動かすことがなくなり、運動不足になって体力も落ちていると思います。運動時間の確保。

ダブルの家庭の子どもたち、特に家庭での会話がミャンマー語の子どもたちの日本語力の低下が心配。幼児期の日本語離れは厳しい。できる限り早く登園受け入れをし、幼稚部の生活に戻してあげたい。

めげずに、自分の仕事をやり遂げねば、というのが現在の心境です。

子供・職員に直接会ったことがない中の1年目職員は、全てが不安である。細かなことを相談したり、話し合える機会がないので、職員自身の健康が心配である。

多くを望みすぎるのは、児童生徒にとっても職員にとってもマイナスに働いてしまいそう。ある程度は見極めて行う行事、行わなに行事など、精選する必要を感じています。

・オンライン授業に携わるようになり、今まで敬遠しがちだったＩＣＴ機器に向き合うことができたことは、自分自身にとって大きな財産となってきている。今は、思うように事態が進まず大変な状況だが、一方で別な方法にも取り組むようになり、自分の中の教育に関する選択肢を増やすことができている。ピンチはチャンスととらえて、これからも新しいことに挑戦していきたい。

子どもたちが母親や父親と離れ離れで生活してることがとてもかわいそうです。保護者の方々も仕事や配偶者を置いて日本に戻られており、仕方ないとは言え、とても苦しい状況にいると思います。そんな中ですが、まだあったこともない私たち教員を温かく迎え入れて下さり、至らない点があって謝罪をしても優しく許し温かいお言葉をかけてくださることにただただ、感謝しています。少しでも学校がオンライン授業が癒しや楽しみの場になってくれることを願っています。
先生方もとても前向きな方々が多く、みなさん大変な中なのに、新任職員をいたわってくださり、ありがたいです。まだまだ分かっていない部分が多いですが、やれることを精一杯がんばっていきたいと思っています。自分自身については、過去にないとても貴重な経験ができ、とても勉強になりました。今後、気候変動等ある厳しい時代に、頭を柔らかくして生きていく方法を今回少し学べてきているのではないかと思います。